

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	空飛ぶ三輪車・野口第2保育所
施設所在地	東京都東村山市野口町3-7-5
法人名	NPO法人 子ども自然探検隊空飛ぶ三輪車

1. 活動のテーマ

<テーマ>

植物に親しもう②綿の糸つむぎ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

今年度開園した当園において、園庭の環境整備が必須である。身近に植物があふれ、子どもたちの好奇心をくすぐる園庭づくりを、子どもたちと一緒に、行っていきたいと考えた。近所に園の畑を借りていることから、職員はもとより、農作業や庭仕事の経験が豊かな園児たちであるという強みを活かし、より植物への親しみ、関心を広げてゆきたいと考えた。

綿を取り上げる目的としては、毎年カイコの飼育をし、絹糸に触れる機会を保育の中で設けていることから、「ぼくたちの服は何でできているのか」という子どもの疑問に対して探究活動として取り入れたいと考えた。

2. 活動スケジュール

4月～9月 綿花の栽培(種まき、水やり) 花の観察

10月～11月 綿の収穫、ネイチャーアート

12月 綿の糸つむぎ、オーナメントづくり

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

畑の整備(農機具、肥料など)

ネイチャーアートの準備(グルーガン、)

綿つむぎ用の道具(カードーに変わるものペットの毛取りブラシ、)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

8月 綿の花の観察をし、他に育てている野菜の花のうち何に似ているかなど子どもに質問を投げかけ対話を行った。(3～5歳児)

11月 綿の実が弾け始めた頃に収穫し、拾ってきたどんぐりや木の実などの自然素材と合わせて工作を行った。おへやのベッドや雲に見立てて使う様子が見られた。(4～5歳児ネイチャーアート)

12月 年長のみで簡単な綿つむぎに挑戦。綿の毛の部分を身から外し、丁寧にタネを取り除いていく。集めた毛を道具を使って漉き、かぎ針に引っ掛けてよじっていくことで毛糸のように仕上がる。2人で協力して行ったり、道具を貸しあったり教え合いをしながら進めることができた。

また、紡いだ糸を綿の枝を使って作った小さな織り機に通し、オーナメントを作った。（5歳児）

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

8月 綿の花の観察

保育者「これはなんの花でしょう？」子ども「ハイビスカス？」「オクラ！」

保育者「どっちも似ているね。惜しい惜しい」「これはみんなの洋服になる糸がとれる植物だよ」子ども「カイコみたいだね」「わかった！わた！」

同じ畑で育てているオクラの花に似ていることに気がついたり、カイコの絹糸を思い起こす子どももいて、保育のつながりが感じられた。

11月 綿の収穫

「白いのと茶色いのがあるね」「ふわふわできもちいい」と手触りを確かめ、頬にこすってみたり、下に落ちているのを大事に拾い集めたりと積極的な様子が見られた。

11月 ネイチャーアート

保育の中で実践したほか、保護者を招いた行事としても行った。「これが好き」と綿を大事に使う子や、他の自然素材と比較して、植物の形の違いやその面白さに気づき、自由に表現する姿が見られた。

12月 綿つむぎ

上記の要領で綿を糸に紡ぐ工程を行った。手先が器用な子や関心が高い子など集中力に差が出るかと想像したが、自分の好きな工程を見つけ、自分たちで役割分担をするなどしながら、楽しんで取り組む姿が見られた。「うちの猫の毛もこうやって整えるよ」「タネにいっぱい毛が残っちゃうね」などと気づいたことを発言しながら作業していた。

写真は3ページ目に添付

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

学年に合わせてもその植物の活用法が変えられることで、とても面白い素材だったと感じた。栽培、収穫、工作、糸つむぎ、と植物に触れるアプローチを変えることで、その都度植物の見方が変わり、より深い探究活動につながっていたと考えられる。

服になる植物だということまで想像できたかはわからないが、丁寧に加工することで素材の形が変化し、人の道具になるという過程も体験できていた。

また、初の試みだったため他の保育者も興味を示してくれ、今後はもっと本格的な道具を揃えて取り組んでみたい課題となった。

空飛ぶ三輪車・野口第2保育所
すくわくプログラム
2024年度 活動報告 添付写真
植物に親しもう② 綿の糸つむぎ



